

NPO法人GCMSの活動方針 について

NPO法人広域連携医療福祉システム
支援機構（略称:NPO法人GCMS）
理事長 周藤安造

2022年の主な活動方針

1. 研究交流推進事業の継続
GCM研究集会、交流フォーラム、
各種分科会、WG
2. ソリューション開発事業
25年問題ソリューションに向けた物づくり
3. NPO間連携の推進
テリトリーの拡張（異業種連携、医工連携
効果）

研究交流推進事業の継続

- (1) GCM研究集会
第19回GCM(2022.7.23)
- (2) 交流フォーラム
第9回NPO/GCM交流フォーラム
2022.12頃
- (3) 各種分科会、WG(随時)
 - ・クリニック向け医療情報可視化WG
 - ・脳機能解析応用分科会など

ソリューション開発事業

- 1. クリニック向け医療情報可視化システム
開発事業
メタバース健診支援システムとして事業化
- 2. デジタルコンテンツ公開サービス事業
NPO主導によるICT人材育成支援事業

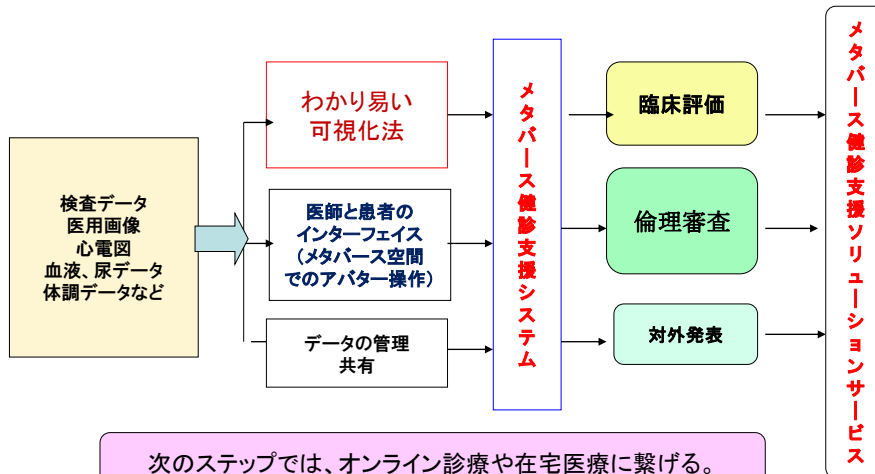
メタバース健診支援システム開発事業

ねらい

メタバース健診支援システムの開発により健診(一次予防)受診者を増やし、検診(二次防)受診への流れを作り、早期発見により、健康増進、総医費削減が達成できれば、25年問題のソリューションとなりうる。

メタバース健診支援システム開発事業

現状では、健診などでの検査結果は必ずしも患者にわかりやすく伝わっていない。これを解決する事業である。



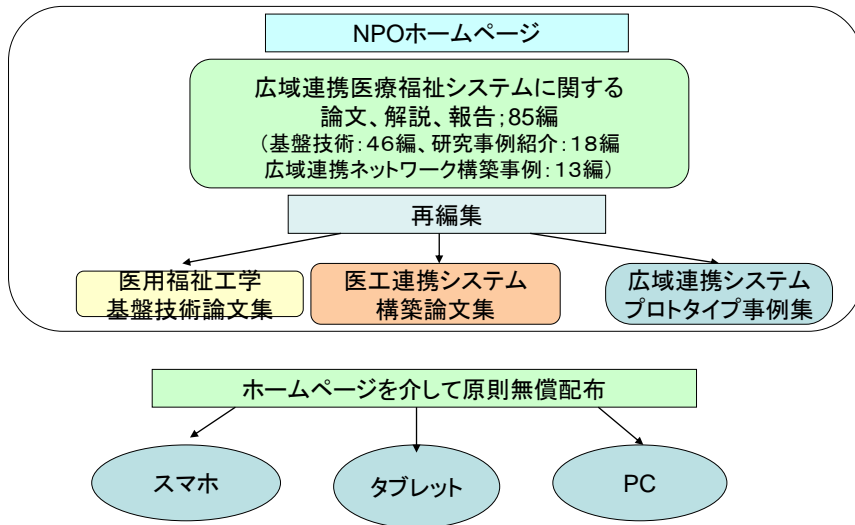
デジタルコンテンツ公開サービス事業

ねらい

我が国も25年問題(2025年)を間近に控え、医療福祉に関わるICT人材の不足が懸念されており、これらのコンテンツをHPを介して無償で公開したり、デジタル出版することにより、医療福祉に関わるICT人材育成を支援する。

デジタルコンテンツ公開サービス事業

25年問題を間近に医療福祉に関わるICT技術者育成を支援する。



NPO間連携の推進

1. 特定非営利活動法人バイオインフォマティクス・ジャパン

理事長 阿久津達也先生

京都大学 化学研究所 バイオインフォマティクスセンター教授

2. 特定非営利活動法人全国在宅医療推進協会

理事長 神津 仁先生 (神津内科クリニック院長)

事務局長 田中正彦様

NPO法人バイオインフォマティクス・ジャパン

1. 活動内容

● ライフサイエンスに関する知識ベースの構築とゲノム解読に必要な知識処理技術の開発

阿久津新理事長方針

● 現在の活動内容の継続・発展 (バイオインフォマティクス、人工知能、創薬など)

● 他NPO法人との連携強化

● ソフトウェア開発

2. 連携効果□

NPO法人の設立趣旨はかなり異なるが、それゆえに異分野交流効果として新しい活動分野への事業展開が期待される。

: 人工知能の分野では、既に脳型AIについて、阿久津理事長様の指導をいただき、特許申請を進めており、連携効果が得られている。そのほかにもソフトウェア開発などについても連携を模索したい。

:

特定非営利活動法人全国在宅医療推進協会

1. 活動内容

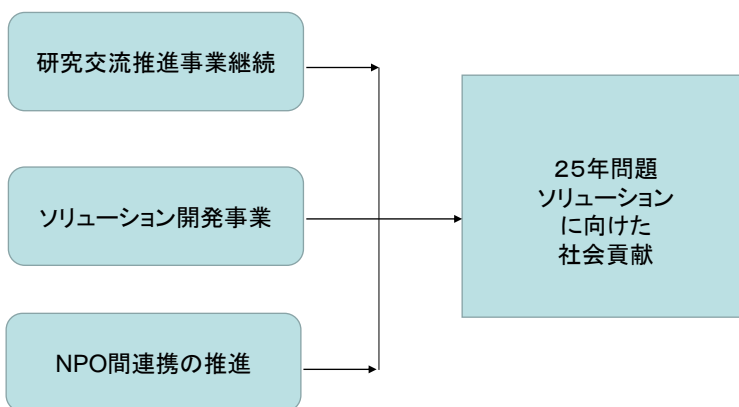
この法人は、全国の在宅医療および在宅ケアに関する情報を収集・整理し、これに関わる医療スタッフとともにこれを共有し、国民に対してその成果を発信することによって、我が国における在宅医療および在宅ケアの健全な発展を推進する事を目的とする。(全在協HPより)

2. 連携効果

医工連携効果が期待でき、具体的には、現在開発を進めているメタバース健診支援システム開発事業において、臨床面からの多大な支援を受けている。

まとめ

1



おわりに

ご清聴ありがとうございました。

NPO法人GCMS